

平成27年度

地域協働合校実践事例集

草津市教育委員会

目次

○ ～小学校における取組～

- ・地域の人に学び、地域で生きるわたしたち [志津小学校] 1
- ・子どもと大人の『共育ち』 [志津南小学校] 2
- ・ふれあい、学び合い、心をひびかせる 草津っ子 [草津小学校] 3
- ・『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！ [草津第二小学校] . . . 4
- ・いいな いいな とともに学んでふれ合うまち 渋川 [渋川小学校] 5
- ・学校ボランティアさんとの交流を通して [矢倉小学校] 6
- ・身近な人に学ぼう [老上小学校] 7
- ・すきです玉川 わたしも参加 つくるよろこび [玉川小学校] 8
- ・おいもを育てて、おいもパーティをひらこう [南笠東小学校] 9
- ・ニゴロブナの放流 [山田小学校] 10
- ・協力して育つ 共に育つ 響いて育つ 子どもの夢そだて [笠縫小学校] . . . 11
- ・ふるさとの「いのち」とふれあう東っ子 [笠縫東小学校] 12
- ・ふるさと 大好き 常盤っ子 [常盤小学校] 13

○ ～中学校における取組～

- ・地域の人々から学ぶ [高穂中学校] 14
- ・地域の人、文化、自然に学ぶ学校づくり [草津中学校] 15
- ・老上クリーン作戦 [老上中学校] 16
- ・地域で中学生に豊かな学びと育ちを～環境学習の取り組み～ [玉川中学校] . . 17
- ・地域協働合校 体験活動の取り組み [新堂中学校] 18
- ・コミュニティ教室 [松原中学校] 19

○ ～まちづくり協議会における取組～

- ・志津の宝物ミステリーハイキング [志津わんぱく協働合校企画委員会] . . . 20
- ・志津南学区地域協働合校 [志津南学区地域協働合校推進委員会] 21
- ・いいとこみつけ！自分・友だち・草津 [草津学区ひと・まちいきいき協議会] . 22
- ・子どもと大人が力をあわせてつながろう
[大路区まちづくり協議会生涯学習部会] . 23
- ・ともに学んでふれあうまち渋川 [渋川学区まちづくり協議会子ども育成部会] . 24
- ・矢倉体験合校 [矢倉・体験合校実行委員会] 25
- ・手をつなぎ、心通わす誘・融（とけ合う）老上
[老上学区地域協働合校推進委員会] . . . 26

・玉川子ども体験合校 防災学習『何でも“サマーチャレンジ”』	
[玉川学区まちづくり協議会 玉川子ども体験合校実行委員会]・・・・・・・・	27
・防災合宿 [南笠東学区地域協働合校]・・・・・・・・・・・・・・・・	28
・山田学区地域協働合校事業 [山田学区まちづくり協議会 地域協働合校部会]・	29
・笠縫学区地域協働合校事業 [笠縫学区まちづくり協議会 子ども育成部会]・・	30
・宿泊体験『ハンター東っ子』・『みんなで遊ぼうさい』	
[笠縫東学区まちづくり協議会 地域協働合校推進協議会]・・・・・・・・	31
・常盤学区ふるさと探検 [人と地域が輝く常盤協議会 文体教部会]・・・・・・・・	32

～小学校における取組～

1 【活動の趣旨】

本校では「人に学び、地域で生きるわたしたち」をテーマに「人・もの・地域」との出会いを大切にした『志』の教育活動に取り組んでいる。今年度より地域協働合校コーディネーターが間に入ることで地域の方の声を取り入れやすくなったことと、他校から学ぶ機会も増えたことにより、昨年までの活動の継承と、新たな活動の展開をすることができた。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 志津のお宝発見

3年生の総合的な学習の時間（くすのきタイム）において、地域で栽培されているカーネーションの栽培の様子を見学し、栽培されている方から、種類や特徴、栽培の工夫や願いなどの話を直接に聞いた。見学を通して自分たちの住む地域の特徴を知り、郷土を大切にしようという思いを育てている。



【お宝発見】

(2) 志津の町たんけん

2年生の生活科の学習で、自分たちの校区を知る「町たんけん」をしている。地域の施設（郵便局・交番・神社・市民センター・衣料店など）に立ち寄り、地域施設の方々から普段では知り得ない貴重な話を聞き地域への興味関心を深めた。保護者ボランティアの方々の協力も得て、安全面にも配慮ができた。



【町たんけん・小槻神社】

3 【実施に当たっての工夫】

- ・学年の要望を簡潔にまとめ地域コーディネーターが綿密な計画を立てている。
- ・学校の要望を地域の方に相談し、地域の方の得意を、一層活用している。
- ・打ち合わせ準備・当日・振り返りなど、よりよい活動になるよう話し合いを重ねている。
- ・志津小学校 HP に「That's my 地域協働合校 report」バナーをつくり、本事業の地域への啓発に取り組んでいる。 (<http://www.shizu-p.skc.ed.jp/report.html>)

4 【事業の成果】

- ・地域の方に、本校の特色や目指している姿を理解していただき、支えていただけた。
- ・児童が地域の方と接することで、顔見知りとなり、地域でも挨拶ができるなど、地域の中の一員であることを理解するようになった。また、地域の特色や伝統、地域の方の意気込みを知り、自らも続こうとする姿がみられた。
- ・新設された地域コーディネーターの活動で、クラブボランティアの組織化や書写ボランティアという新しい支援を得た。



【書写支援】

5 【事業実施上の課題】

- ・ボランティアの活動希望日時と学校が求める活動日時が異なることが多く調整が難しい。
- ・ボランティアが固定化傾向にあるため、新しく人材を募集したいが学校側が希望する人数との調整もあり難しい面がある。

1 【活動の趣旨】

地域の専門家、活動家、高齢者などの方を指導者として学習に迎えたり、直接地域に出かけさまざまな場所やもの、人とふれ合うことを体験したりするこを通し、自分が地域や地域の人々とかかわりがあることや、地域のすばらしさに気づき、親しみや愛着を深めることを目指す。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 「りようぶの道」(3年)

地域にある「りようぶの道」を、地域の方と共に歩き、道のいわれを聞いたり、草木の名前を教えてもらったりした。

(2) 「守り神を作ろう」(3年)

地元の陶芸家の指導のもと、焼き物に挑戦した。陶芸に対する思いを聞き、窯を見学した後、工房でそれぞれの作品を制作した。

(3) 「昔の遊びを教えてもらおう」(1年)

地域のお年寄りの方に、こま・お手玉などの昔遊びを教えていただいた。

(4) 「高齢者とふれあおう」(1、3、5年)

地域の特別養護老人ホームに出かけ、交流の機会を持った。



3 【実施に当たっての工夫】

窓口となる学年の担任が十分に打ち合わせをできるように、場と時間の確保に努めた。どの活動にも、継続して行っており、資料等を残すように心がけているが、その年の子どもの実態に合わせて活動内容を工夫している。



4 【事業の成果】

- ・地域の方と一緒に活動することで、顔なじみになり、登下校や放課後に出会ったときに気軽にあいさつをしたり、声をかけたりするようになった。
- ・地域の自然に触れる機会を持ったことで、自分たちの町について、もっと知りたいという思いを強くした。
- ・地域の方の技や知恵に触れ、素直にすごいと感じることができた。

5 【事業実施上の課題】

事前の打ち合わせの中で、この学習を通して子どもたちにつけたい力はなにか、しっかりと共通理解する必要がある。

今後も、子どもと地域とのつながりを大切にした学習を進めていくために、地域の人材を確保し、広げていくことが必要である。

1 【活動の趣旨】

「ふれあい、学び合い、心をひびかせる草津っ子」を合い言葉に、自分のよさ・学校のよさ・地域のよさを共に高め合う取組を続けている。校地内の学校田や畑で、毎年米作りやサツマイモ作りに取り組み、ボランティアの方を招いて「お米パーティー」や「おいもパーティー」を開き、親交を深めている。さらにボランティア同士の交流や親睦が深まり、地域との関わりがより高まっていくことをめざしている。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 「はなややさいをそだてよう」

1年生の生活科で、環境ボランティアの方に指導していただきながら、サツマイモを植え、植物のいのちを感じながら水やりをして育てている。秋には収穫したサツマイモを使って「おいもパーティー」を開き、ボランティアの方と共に収穫の喜びを味わい、交流を深めている。



【1年 サツマイモ掘り】

(2) 「名人に学ぼう」

4年生の総合的な学習で、日本の伝統的な文化（茶道、日本舞踊、謡曲、和太鼓）に関して、地域の名人さんに話を聞き、実技を指導していただいて、学んだことを互いに発表しあった。子どもたちが日本の伝統文化にふれるよい機会となっている。



【4年 名人に学ぼう】

(3) 読書ボランティア「にじ」による読み聞かせ

読書ボランティア「にじ」のみなさんが、朝のはげみタイムに絵本や紙芝居の読み聞かせを行っている。また、「お昼のお話会」として、昼休みに紙芝居やパネルシアター、絵本の読み聞かせなどを行っている。何度も来ていただいているので、子どもたちは来てくださることを楽しみにしている。

3 【実施に当たっての工夫】

高齢化や体調によりボランティアの数が減ったが、ボランティア同士の声かけで新しい参加者が増えた。また、交流や親睦が深まるように、活動後にミーティングや懇談の時間を持ち、「来てよかった、また来たくなる」ボランティア活動を目指した。ミーティングでは意見交流を行い、次の活動に生かすようにしている。また、子どもたちと学習後も発表会などでふれあいを深め、関わりを次年度へとつなぐように心がけている。



【読書ボランティア「にじ」】

4 【事業の成果】

継続してボランティア活動に取り組んでいる方が多く、毎年、ボランティアの方に活動の流れを把握していただき、主だった活動にスムーズに取り組んでいる。また、継続した取組が、ボランティアの方の「私たちが草津小の教育活動を支えている」という生き甲斐や誇りにつながっている。学習のまとめ以外にも運動会や歌声集会に参加していただき、交流や関わりが深まり、子どもたちの豊かな学びにつながっている。

5 【事業実施上の課題】

ボランティアの方の熱心な支援で、丁寧に指導していただき、学習は予定通りスムーズに進むが、「子どもたちが試行錯誤をしながら自力解決する力が育つ機会を減らしているかもしれない」という危惧の念を抱くことがある。事前打ち合わせなどで、学習内容だけでなく、体験を通じて培う学習のねらいや役割分担について、学級担任やボランティア同士の連携を密にし、共通理解する必要がある。

1 【活動の趣旨】

本校では、地域や保護者と協働で子どもたちをいきいきと育てていくことを願い、「『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！ ～地域と協働し活力のある学校をめざして～」をスローガンにして取り組んだ。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 2年生「赤ちゃん先生プロジェクト」

NPOと地域の企業との協働により、0歳児の「赤ちゃん先生」との5回のふれあいを通して、命の大切さ、成長の喜びを感じる体験をする。自分にも赤ちゃんの時期があり見守られながら成長していること、かけがえのない存在であることを感じていく。

(2) 3年生「ふれあいお店体験」

草津駅前の商店街で、3年生児童がお店体験をすることにより、地域の方々と積極的に関わり、交流しようとする態度を育てる。また、どのような思いや願いをもって働いておられるかに気づき、働くことの大切さについて体験を通して学ぶ。

(3) 6年生「マイドリーム」

地域の方や卒業生をゲストティーチャーに招き、今の仕事に就こうと思ったきっかけや努力したこと、仕事をする上で困ったことややりがいなどについて話をしていただく。自分の将来に夢を描き、その実現に向けて努力していこうとする意欲を高める。

◇オリンピック出場選手、アナウンサー、女性救命救急士、パティシエ、カメラマン、元青年海外協力隊員

(4) 防災士を招いた避難訓練

防災士の資格を持っておられる地域の郵便局長さんを迎えて避難訓練を実施している。子どもたちの避難や教員の指示誘導の様子を見ていただき、全校児童の前で指導講評をいただいている。

(5) 芝生ボランティア

運動会前の朝に、募集したボランティアの皆さんに、本校運動場芝生ランドの雑草抜きをしていただいた。雑草抜きの後、1～2時間目の全校練習の様子を自由に参観していただいた。

3 【実施に当たっての工夫】

地域協働合校の年間計画を年度末に見直し、新年度初めに新たに作成することで、一年間の活動に見通しを持つとともに、地域コーディネーターと連携して、地域の方へ早めに連絡・予約をとり、スムーズに実施できるようにした。

4 【事業の成果】

毎年の積み上げがあるうえに、地域コーディネーターの方が意欲的に動いてくださったので、ボランティアの人数や分野が増え、子どもたちの学習が一層充実した。また、情報の記者提供をきめ細かくした結果、テレビや新聞、市の広報誌等、何度も取材していただいた。報道されることで、支援していただいた方々や児童・保護者にも喜んでいただけた。

5 【事業実施上の課題】

今年度から配置された地域コーディネーターに一層活躍していただけるように、学校内の役割分担の見直しと連携強化に努めていきたい。



1 【活動の趣旨】

本校には、新しい住宅・マンションに移り住んできた児童が多い。そのため、「生活科」や「総合的な学習の時間」を活用して地域に関わることを学ぶ機会を大切にしている。学習を通して、自分たちが住む地域の人々が受け継いできたこと、そこに込められた願いを知る。また、そのことから自分たちの住む「渋川」に愛着を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を育む機会にするために地域協働合校事業を進めている。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 「わたしのまち発見!!」

2年生では「町たんけん」を行い、渋川のまちを自分たちの足で歩き、いろいろな物や人と出会う機会を持った。

特に、神社や商店等では事前をお願いをして子どもたちがインタビューする機会を設けた。

(2) 「渋川花踊り」

3年生で「渋川花踊り」に取り組んで4年目になる。今年度は1学期に「花踊り保存会」の方から「花踊り」の歴史・願い・踊りについて教えていただく機会を持った。

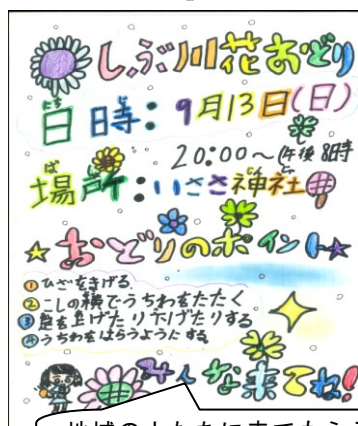
そして、9月に行われる「花踊り」のポスター作成に取り組んだ。子どもたちは出来上がったポスターに学校からの依頼文を添えて町内会やマンション、商店の掲示板に貼っていただくようお願いに行った。

3年生の子どもたちは10月に行われた「渋川学区 ふれあいまつり」で踊りの練習の成果を披露した。



わたしのまち発見!!

花踊りは550年もの歴史がある踊りなんて初めて知った!!



地域の人たちに来てもらえるポスターをがんばって作ろう!



ポスターを貼ってもらうようお願いするのはドキドキ…ポスターを見てもらえるかな。



ふれあいまつりには渋川のキャラクター「渋花ちゃん」も飛び入り参加!! みんなと楽しく踊れて思い出になったよ。

3 【実施に当たっての工夫】

2年生では少人数での活動を取り入れ、安全面のサポーターとして保護者の協力を得た。保護者もサポーターとして参加することで渋川のまちを知る機会になった。

3年生のポスター掲示の取組では、担任が事前に自治連合会の会議に出向き、取組の趣旨を伝え協力を求めた。また、保護者にも趣旨を理解し子どもたちがポスターの掲示をお願いするときには様子を見守ってもらうようお願いをした。

4 【事業の成果】

報告では、2事例であるがどの学年でも地域の方の協力を得て子どもたちの豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。

活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

5 【事業実施上の課題】

同じ活動でも、子どもの実態に合わせて工夫の余地がある。「毎年取り組んでいるから…」という活動にならないように、めあてをしっかりと意識して取り組みたい。

1 【活動の趣旨】

J R 南草津駅周辺の開発により、校区の宅地開発が進み、自然環境は変化している。そのような中、子どもたちが、自然の中で生き物を捕ったり、土に触れながら野菜を栽培したりする体験も少なくなっている。また、核家族化が進み、学区の住民が講師になり、野菜の特色や畑作りのコツについて学ぶ機会も少なくなっている。本校は、8年前から通学の見守りや校地内の環境整備をしてくださっている学校ボランティアの方がおられる。

2 【特徴的な活動内容】

8年前、お孫さんの小学校入学をきっかけに学校ボランティアとして活動されているが、それ以前は、隣接する矢倉幼稚園のボランティアもされていた。そのため、多くの子どもたちとは顔なじみである。ボランティアは校舎内外の環境整備に留まらず、今では、各学年の生活科や理科や社会科のゲストティーチャーとして、幅広く教育課程に関わってくださっている。主な活動内容は以下のようなものである。



特別支援学級・・・野菜栽培

1年・・・サツマイモ栽培

2年・・・一人一鉢栽培・枝豆、大根栽培

3年・・・花の定植（春）

4年・・・花の定植（秋）・ヘチマの栽培

5年・・・田んぼの学校

6年・・・ジャガイモ栽培・戦争体験講話・記念植樹

委員会活動・・・春秋の花の定植

P T A活動・・・環境整備活動・学区のお祭りでの野菜出品等



3 【実施に当たっての工夫】

- ・学校ボランティアの方々との打合せや報告を朝夕の時間帯に設定するなど、事業実施に向けての綿密な打合せ時間の確保を心がけている。
- ・地域協働合校担当が窓口となって、こまめに学級や学年、学校のニーズを汲み取り、学校ボランティアに伝えることで、臨機応変に授業に反映されている。
- ・保護者や学校ボランティア、市民センター等のネットワークを意識的に活用することで、新たな学校ボランティアとなる人材確保に努めている。

4 【事業の成果】

1年を通して祖父のような年齢の学校ボランティアさんと、いっしょに栽培活動や美化活動をし、きれいで整頓された環境の中で学ぶことの意義は大きい。また、自分たちの学校をボランティアの〇〇さんがいつもきれいにしてくださっているという思いが、愛校意識につながっている。

子どもたちは、日頃からボランティアさんの働く姿を学校生活の中で見ており、背中で数々のことを教わっている。

子どもたちは毎日校地内の環境整備に来られるボランティアさんの姿を見て、今では「〇〇さん、お仕事ご苦労様です。」と親しく声をかける姿が見られる。

一昨年度、P T Aの方が学級園の拡張整備をしてくださり、広くなった学級園で作物を栽培する自然体験を通して、学校ボランティアさんと交流を続けている。

また、ボランティアさんは、通学の見守りや校地内の環境整備だけでなく、夏休みのラジオ体操にも各地域を巡回し参加しておられ、保護者と子どもと学校を繋ぐ架け橋にもなってくださっている。

5 【事業実施上の課題】

地域住民が授業に参画し、地域の教育力を活かし、学校の教育課程に組み込むことの効果を、この取組を通して感じている。

今一度、全教育課程の中で地域協働合校をコーディネートし、地域住民との交流を図っていく必要があると考える。

1 【活動の趣旨】

長い歴史のある本校は、様々な場面で地域の方から支えられ、子どもたちもその場面に出席することが多く、地域の方に親しみを感じている。

しかし、ある程度長い時間をかけて話をしたり、何かに一緒に取り組んだりといったことは、意外と少ないのが現状である。

地域協働合校の取組の中で、身近な地域の方の考え方や人柄などにたくさん触れ、より豊かな人間性を身につけてほしいと考えている。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 「道具から分かる昔の暮らし」

3年生社会科の学習で、古い道具を保存してくださっている方にお越しいただいた。

道具の実物を見ながら、当時の暮らしぶりも教えていただき、子どもたちは人々の生活を実感することができた。



(2) 「昔の遊び～地域の方から教わろう～」

1年生生活科の学習で「昔の遊び」を老人クラブの方から2回にわたって教わった。

1回目は教わり、その後に練習を積んで、2回目には一緒に遊んだ。さらに、その遊びの楽しさを学習参観で発表した。

地域の方から教わったことを保護者に伝えることで、子どもたちと地域の結びつきを、保護者にも実感してもらえる機会とすることができた。



3 【実施に当たっての工夫】

4年生社会科では、今年度初めて郷土史に詳しい方から地域の歴史について教えていただいた。継続している取組をより良いものにするとともに、協力いただける方を見つけ、新しいことに挑戦していく姿勢を大切にしている。

4 【事業の成果】

上記2事例はこの数年継続している取組で、地域の方が指導に慣れてきていただき、学習がより充実してきている。また、ここで協力いただいた方が、新たな協力者を紹介してくださることも多い。

人と人とのつながりにより、活動をより良いものとしていただいている。今後もこれを大切にしたいと考えている。

5 【事業実施上の課題】

平成28年4月の学校分離を迎え、これまでに培ってきた地域との連携を大きく見直す必要に迫られている。

今後継続できない取組も出てくるのが想定される中、子どもたちに必要となるものはしっかりと見極め、地域の方の協力を仰いでいかなければならない。

1 【活動の趣旨】

本学区のみなさんは小学校の活動に対して非常に協力的であり、環境を整えていただいたり、子どもたちの学習を助けていただいたりしてきた。地域の特性を生かした活動は、地域の方にとっても、子どもたちにとっても有意義な取組となるように仕組んでいる。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 5年生 米作り～もちつき

5月の苗植えや稲刈りを体験している。5年生が育てたもち米は、萩まつりで地域のみなさんにふるまわれている。また、米だけでなく、わらも、昔の生活の中で生かされていたことを知るために、わらないなどの体験もしている。



5年田植え

(2) 3年生 そろばん教室

そろばんの学習を地域のそろばん教室の先生に教えていただいて今年で16年目になる。3年生になると、そろばんの先生と一緒に学習することを知っていて、楽しみにしている子どもがいる。来年度は、4年生の学習でも一緒に学習することを計画している。

(3) 1年生 けん玉教室・昔遊び

1年生は、人との関わりを大切にけん玉や昔遊びなどに取り組んでいる。地域のみなさんとの交流を楽しむことができるように仕組んでいる。昔遊びでは、メンコ、はねつき、あやとりなど10ほどの遊びを一緒に体験している。

けん玉は、教えてもらった後、休み時間の人気の遊びになり、夢中で遊んでいる姿が見られる。さらなる上達のため、昼休みにも3回来ていただき、教えていただいている。



1年昔遊び

(4) 萩まつり

地域のみなさん、学校、企業など玉川学区の力を結集して行われている地域のお祭りである。午前中は幼稚園、小学校、中学校、高校の発表が行われている。午後からは、模擬店やふれあいコーナーなど工夫された取組がある。地域のみなさんが笑顔になるような内容になっていて、子どもたちも大人も楽しく活動している。

3 【実施に当たっての工夫】

玉川小学校の地域協働合校の伝統として行われている活動に加え、新しい取組を毎年少しずつ取り入れるように考えている。そのためには、行事が終わった後に地域のみなさんと反省会をもち、来ていただいた方とその日のうちに話し合って次年度に生かすようにしてきた。毎年、必ず行事を見直しより良い取組だけを残すようにしている。

4 【事業の成果】

子どもたちは地域の中で生活している。地域の中にはいろいろな技能を持った人がたくさんいるということを、子どもたちは地域協働合校の行事を通して学んできた。人とのつながりを持つ良いきっかけになっている。中には、地域に帰った時に、地域で関わっていただいているみなさんに感謝の気持ちを直接伝えている子どもたちもいた。

5 【事業実施上の課題】

小学生と地域のみなさんをつないで、一緒に活動することで、玉川学区の良さや特徴を知り、玉川を愛する子どもたちが増えることを、地域の方は期待されている。玉川のこと大好きといえる子どもになるように今まで続いてきた伝統的な活動を継承しながら、新たな取組を取り入れていきたいと考えている。ただ、現在教えていただいている方たちが高齢化している。今後も学校と地域を結ぶ力をもっと高められるようにコーディネートをしていきたい。

1 【活動の趣旨】

・サツマイモの苗植えや、水・肥料やり、草引きなどの世話をすることを通じて、植物の生育を体験的に学ぶとともに、おいもを使った料理を作って収穫の喜びを感じ取る。
・老人クラブの方からサツマイモの育て方を教わり、苗植えから収穫までを一緒に作業をする中で温かいつながりや感謝の気持ちを育む。
・保護者に栽培活動の様子を伝えたり、収穫後のサツマイモの調理に参加・協力をさせていただいたりすることで、子ども、保護者、地域の方のつながりを深める。



2 【特徴的な活動内容】

1年生は毎年、生活科「おいもをそだてよう」の学習で、サツマイモの栽培に取り組んでいる。5月19日、老人クラブの方と一緒に学校農園にサツマイモの苗を植えた。事前に固くなった地面を耕して、1年生の力でも苗が植えられるように畝作りをしてくださった。老人クラブの方から苗の置き方や、土のかぶせ方を教えてもらい、全員が丁寧に苗を植えた。



それから、1年生は朝、学習が始まる前や昼休みに苗に水やりを欠かさずに行った。夏が近づくにつれて、次第においもの葉が茂り生長が感じられた。老人クラブの方は、時期を見て草引きや肥料を与えてくださるなど、子どもだけではできない世話をしてくださった。夏休み終わりのPTA奉仕作業で、周りに茂った雑草を取り除いた。



10月9日、老人クラブの方と1年生児童全員でいも掘りを行った。今年は大きなサツマイモが収穫でき、1年生の子どもたちは、ずっしりと重たいおいもに大喜びだった。「おいもパーティをひらこう」と、計画を立て、保護者の方にもお手伝いしていただき、おいしいおいも料理を作った。そして、11月19日のパーティ当日、お世話になった老人クラブの方を招待してサツマイモを育てた学習の発表をしたり、一緒にサツマイモの茶巾絞りをいただいたりした。

3 【実施に当たっての工夫】

普段から老人クラブの方といろいろな面でつながりが持てるように、学校全体がいろいろな学年で交流するようにしている。例えば、4年生は9月に地域の敬老会に参加して演芸活動を披露したり、運動会に招待して全校一緒に江州音頭を踊ったりしている。また、6年生も総合的な学習の時間に、戦争体験についてお話を聴かせていただいている。



4 【事業の成果】

老人クラブの方に、サツマイモの栽培の仕方を教えていただくことを通して、毎日忘れずに世話をすることの大切さを学び、収穫する喜びを感じることができた。そして、何より老人クラブの方への感謝の気持ちを培うことができたことが大きな成果である。

5 【事業実施上の課題】

老人クラブの方には、1月にも昔の遊びを教えに来ていただいている。このように年間を通して継続した活動は、子どもの心に地域の人々とのつながりが育ちやすいと考える。今後、このような継続した活動を他の学年にも仕組んでいきたい。

1 【活動の趣旨】

(財) 滋賀県水産振興協会（栽培漁業センター）で育てていただいたニゴロブナの稚魚をびわ湖に放流する活動を通して、子どもたちがびわ湖の水環境を考えるきっかけとさせたい。そして、水産資源の確保や保護の意識を高めると共にびわ湖を取り巻く環境保全の必要性についても体感させ、5年生のフローティングスクールでの学習につなげたい。

2 【特徴的な活動内容】

- ・ 4年生の総合的な学習の時間の環境学習の取り組みである。
- ・ 山田漁業協同組合と滋賀県栽培漁業センターのご協力により、漁船でびわ湖上に出てニゴロブナの稚魚の放流を行う。
- ・ 船上では藻の除草作業を見学する。
- ・ 漁港でモロコを試食する。



3 【実施に当たっての工夫】

県水産課の方にもお越しいただき、琵琶湖の育てる漁業について話をいただいた。その後6艇の船に分かれて稚魚を育てておられる場所を見せてもらった。小グループに分かれ、琵琶湖の漁業の話→稚魚養殖場見学→藻の除去作業見学→琵琶湖の恵み試食体験とたくさんの体験ができた。



4 【事業の成果】

北山田漁港で働く人たちとふれあう時間があり、地域の人々や地域の産業にも興味・関心を持つことができた。実際に稚魚を見ることで卵から大事に育てられていることが実感できた。また、藻の除去作業ではその多さに驚き、琵琶湖の現状を知るきっかけとなった。

5 【事業実施上の課題】

ニゴロブナの放流は、ここ数年来、山田小学校で欠かさず取り組んでいる環境学習の一つである。

地元の漁業協同組合の熱意ある協力のおかげで、毎年実施できている。年度によっては、モロコの試食や水草の除草作業を見せてくださったりすることがある。今年度は、幸運にも両方の活動を取り入れていただき、活動も充実していた。水草の除草作業などについては、貴重な体験なので、教材としてビデオに残すなど、次年度の参考となる記録をしていく必要がある。



1 【活動の趣旨】

「夢いっぱい生き生き学ぶ笠縫の子」をめざす子ども像として、地域との協働の活動として、「栽培体験合校」、「地域の人と学ぶ合校」、「読書推進合校」「地域安全・学校安全合校」を窓口に、取組を進めている。今年はコーディネーターの協力も得て、さまざまな活動に地域の人材を求め活動している。

2 【特徴的な活動内容】

- (1)「栽培体験合校」では、サツマイモ、アオバナ、米作り体験など「畑の先生」、「アオバナの先生」「田んぼの先生」、ボランティアさんなど、多様な形で協働している。
- (2)「地域の人と学ぶ合校」では、昔遊びの先生、町の名人先生、故郷の歴史の先生をはじめ、福祉体験の先生、ミシンや調理の先生など、子どもたちの多くの学習活動の場で地域の方々と協働している。
- (3)「読書推進合校」では、読書ボランティアによる毎月のお話会をはじめ、子どもたちが楽しく何度も行きたくなるような図書室づくり、本の貸し出し支援などの読書活動推進への取組を協働している。
- (4)「地域安全・学校安全合校」では、見守り隊による登下校の見守り、保護者による校内巡視なども支援していただき、安心安全な地域・学校の環境づくりに協働している。

3 【実施に当たっての工夫】

地域の良さを感じたり学校や校区の事を詳しく調べたり、校区の人たちの生き方や温かさに触れたりするような活動も大事にしていきたいと思っている。

3年生では、総合的な学習の時間に「アオバナ博士になろう」を学習している。草津市の花であるアオバナを生産し、伝統を受け継いでおられる名人が学校の近くにおられることから、アオバナ名人に出会って話を聞いたり、アオバナの栽培や花摘み体験、染物をしたりして、地域の伝統や名人の生き方、願いなどにふれながら学習を進めている。

6年生では、「ふるさと歴史探訪」で伝統行事や校区の先人である二人の画家を窓口に学習を進めている。地域の人を訪ねて話を聞き、伝統行事の一部を体験させていただきながら、地域の歴史を身近に感じて学んでいる。



4 【事業の成果】

4つの窓口を意識して取組を計画すると、活動の方向性が分かりやすく、計画・立案、実践、その改善・充実を図ることに役立っている。

また、計画した学びや活動に取り組む中で、地域の人との出会いがあったり、生活の場が学びの場になったりして、自分のふるさとである「笠縫」について多様な観点からの理解につながっている。

5 【事業実施上の課題】

「〇〇の先生」の裾野を広げていくこと、スムーズなバトンタッチをしていくための人材発掘をコーディネーターと連携して進めていくことなどが課題といえるだろう。

1 【活動の趣旨】

本校は、「葉山川」をはじめとする豊かな自然環境と、学校教育に協力的な地域住民が多いという人的環境にも恵まれた学校であり、これまでから、たくさんの地域の方々の力を借りて教育活動の充実に努めてきた。今年度はコーディネーターの活躍により、今まで以上に学習ボランティアへのサポートがきめ細かにでき、学習活動をスムーズに推進することができた。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 全学年が行う「葉山川学習」(環境学習)

地域の葉山川を素材として、1年生から6年生までの系統的なカリキュラムのもと、地域の学習ボランティアとともに環境の学習を行い、その成果を11月の地域ふれあいまつりの場で「ふるさと葉山川博物館」として、学年ごとにブースに分かれて、地域住民や保護者に向けて発表する。



【葉山川土手で昆虫採集】

(2) 「夢・未来教室」～ようこそ先輩・ただいま授業中～

各界で活躍する本校卒業生が4年生から6年生に授業をし、子どもたちが夢や憧れをもって頑張ろうとする意欲を喚起する(司法書士、芸人、ヨット選手、画家、陶芸家、医者、カメラマン、翻訳家、救急救命士、指揮者、新聞記者等)。

3 【実施に当たっての工夫】

協力してもらった学習ボランティアには、子どもたちがお礼の手紙や学習の感想を書いて渡したり感謝集会を開いたりして、感謝の気持ちを伝え、活動後も地域などでお互いの交流がはかれるようにしている。

4 【事業の成果】

本校の中心事業である「葉山川学習」は、校外でのフィールドワークが中心となるため児童の安全確保と活動支援に多数の学習ボランティアが力を貸してくださっている。また、学習ボランティアの植物や昆虫・魚に対する専門知識と、事前の川の水量確認や土手の草刈りなどの準備もなくてはならない支援になっている。

コーディネーターの存在により、学習ボランティアとのさらなるきめ細かな連絡が図れたことにより、学習活動の充実につながった。



【葉山川での魚採りの様子】

5 【事業実施上の課題】

各学年での活動が定着すればするほど、マンネリ化する傾向がある。その年度の子どもの実態に合わせて、活動の工夫をすることが求められる。

また、学習ボランティアも固定化されがちなので、新しい人材発掘のため、教師が地域の活動に関心をもつことも大切である。

1 【活動の趣旨】

子どもたちを、学校と家庭、地域が、一体となり、見守り、支えていくことを目標に活動を展開している。子どもたちが、地域の方との交流を通して、自分の生まれ育った場所に愛着と誇りを持てるように取り組んだ。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 「ときわ探検」

3年生の総合学習で、学区内の歴史的建造物を訪れたり、産業の現場を見学したりすることで、地域の良さをあらためて知ることができた。特に、志那町で行われている淡水真珠の養殖の見学時には、養殖されている方の全面的な協力のもと、見るだけではなく、実際に貝にさわって、真珠を取り出す作業まで体験することができた。



【ときわ探検】

(2) 「米作りと環境学習」

5年生の総合学習で、米作りを通して命のありがたさや環境の大切について学んだ。地域の農家の協力を得ることで、身近な場所で稲を見守り、成長の喜びを感じながら米作りをすることができた。また、田んぼにつながる水路の生態系を、地域の方とともに探索する活動を通して、食と環境のつながりや環境を守る大切さについて学ぶことができた。

(3) 「ふなずし作り」

5年生の総合学習で、ふなずし作りを通して、滋賀の食文化を知り、伝統文化を守っていくことの大切さを学んだ。常盤学区には、伝統的なふなきり神事や家庭でふなずしを作る文化が、受け継がれており、地域の方に、思いを聞き、一緒にふなずしを作る中で、地域に一層愛着を持つことができた。



【ふなずし作り】

3 【実施に当たっての工夫】

学校のコーディネーター担当者や担任が、人材の発掘で大きな役割を担う地域コーディネーターと打ち合わせの時間をとり、活動の趣旨を十分に理解してもらえよう心がけた。

4 【事業の成果】

地域の方に協力をしてもらうことで、子どもたちにとって印象深い体験的な活動を多く行うことができた。また、交流する活動の中で、子どもたちには地元に対する愛着を、地域の方には、自分たちが学校を支えていくのだという当事者意識を育むことができた。

5 【事業実施上の課題】

地域の方に多く関わってもらえらうほど、綿密な打ち合わせや連絡が必要になる。地域コーディネーターのおかげで、教師負担が軽減されてきたが、子どもの実態にあわせた対応を打ち合わせる十分な時間を確保することが難しい。また、学校ボランティアに参加したいという気持ちはあっても、機会がなく、活動できていない地域の人材をどのように活用していくかも課題である。